

令和3年度
学校関係者評価委員会
報告書

令和4年6月

学校法人 タイケン科学学園
日本ウェルネス保育専門学校

目 次

- P. 3 1. 学校関係者評価委員会の目的
- P. 3 2. 学校関係者評価委員会の所管事項
- P. 3 3. 令和2年度 学校関係者評価委員会開催概要
- P. 4 4. 議 題
- (1) オンライン教育の在り方について
 - (2) 医療事務学科の教育効果と今後方向性について

1. 学校関係者評価委員会の目的

日本ウェルネス保育専門学校が、関係者の理解と協力を得ながら学校運営を進めていくために、学校の基礎的情報の把握・分析を行ない、学校関係者(関係業界、所轄庁、学生、保護者、地域社会等)との信頼関係を強めることを目的に設置する

(日本ウェルネス保育専門学校 学校関係者評価委員会 規則 第1条より抜粋)

2. 学校関係者評価委員会の所管事項

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学校の教育目標・人材育成の目標及び教育指導計画、経営方針
- (2) 教職員の組織、教員の専門性
- (3) 学生支援・キャリア教育の実践的職業教育
- (4) 財務情報の公開・法令等の遵守
- (5) その他、自己評価・学校関係者評価を踏まえた改善方策

(日本ウェルネス保育専門学校 学校関係者評価委員会 規則 第2条より)

3. 令和3年度 学校関係者評価委員会 開催概要

(1) 日 時 令和4年6月24日 10時00分～12時00分

(2) 場 所 東京都千代田区神田神保町1-52-4
日本ウェルネス保育専門学校 会議室

(3) 出席者 委員長 相澤 隆二
委員 畠山 拓也
委員 渡邊 雄一
委員 柴岡 信一郎
職員 平山 実
職員 増澤 將江

(4) 議 題 1 令和3年度自己評価報告書の概要について
2 将来の教育IT化について
3 医療情報管理学科の授業の進め方及び今後の方向性について

4. 議 題

(1) 令和3年度自己評価報告書に対する、委員からの評価及び意見、その改善方策
ア. 教育理念・目標

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・学生及び保護者等に対し、男女共同参画社会で活躍する保育者の養成という将来構想の周知は改善しているものの依然不足しているのではないかと。	・学校の将来構想をホームページ及び『学生ガイドブック』に掲載するとともに機会ある毎に当該構想を啓蒙した結果、学生や保護者への周知は改善されてきたものと考えらる。

イ. 学校運営

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムにおいて、月1回で不十分な月とは、どういう意味か。	・毎月実施できたものの、12月、4月は、予算編成、決算の2回の実施が必要と考える。

ウ. 教育活動

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	医療事務学科では、通常授業内に実施している。また授業外で適宜に資格対策講座を行っている。

エ. 学修成果

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・退学率全体としては年々減少しているものの、依然としてメンタル面を主な原因とした退学率は横ばいであるが、所見は。	・担任とスクールカウンセラーと緊密な連携を図り、きめ細かな身上把握に努めるとともに保護者とも必要の都度連絡をとる。今後も常に退学率の低減を考え、学生との距離の保ち方を様々な方策で講じていくこととする。

オ. 学生支援

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・学納金減免制度として、学生支援機構以外にどのような制度があるか。	・タイケン福祉会奨学金、高等教育無償化制度、指定校推薦制度を用意している。

カ. 教育環境

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・図書類について、一部陳腐化しているものについて更新する必要がある。IT関係の書籍は、少ないが。	・定期的に図書類を見直し逐次更新する。特にIT関係の書籍の充実を図る。

キ. 学生の受入れ募集

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
学生募集のマンパワーはどのくらいあるか。	募集専任職員は、1名であるが、全職員営業マンとなり、創意工夫と効率化により、実効性のある募集を行う。

ク. 財務

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・特になし。	

ケ. 法令等の遵守

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
特になし。	

コ. 社会貢献・地域貢献

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
・地域へのボランティア活動では、毎回のごとく学生の参加者数が少なかった。ボランティア活動に対する啓蒙が不足しているのではないか。	・あらゆる機会を通じ啓蒙を図る。

(2) オンライン教育の在り方について

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
更なるIT化について、ハード・ソフト面での構造的課題は何か。	館内WIFI化や個人端末について、更にその実効性を検討する。

(3) 医療事務学科の教育効果と今後の方向性について

委員からの評価及び意見	委員からの意見に対する改善方策
医療事務学科卒業後の進路はどうか。	令和3年度卒業生（1期生）の就職内定率は、86.6%と好調であった。しかも、内定先も多岐にわたり、在学生にも好評であった。今後、内定先を訪問し、コネクションを強化し、2期生以降の就職につなげて行く。